

1907年の株の暴落に端を発した世界大恐慌が百年後に再現した。戦後、アメリカンドリームは、世界中から成功を夢見る若者と資金を誘蛾灯のようにひきつけた。

たった一人の不明なリーダーへの権力の集中と付与が米国社会を一変させた。人類史上最強の軍事力で幻の繁栄を誇り単独支配を謳歌した米国型システムが崩れ去った。

「**チェンジ**」をアピールした初のアフリカ系大統領の登場。若さが漲り古き良き伝統を見直し「**グリーン・ニューディール政策**」を掲げ、環境重視で新規産業と雇用創出を図る政策は、神は自ら助くる者を助くを想わせる。

激変する同盟国の動向に固唾を飲んで見守る日本人。前大統領が一顧だにできなかった、環境と温暖化防止分野に巨額の財政投入で米国を再生し、「**戦いから対話**」へと大きく舵を切る外交方針を世界にアピール。農林水産業の未来に光が見える。

昨年暮れに耳目を集めた「**年越し派遣村**」。重い腰を上げ、政府も後追い対策で冷や汗をかいた。真面目な労働を踏み台にした投資運用ビジネス破綻の影響は甚大だ。米国のみならず世界中の金融機関やビッグスリーに代表される自動車産業の凋落で世界経済に暴風が吹きまくり当分収まりそうにない。金融偏向経済システムから変革できなければ、世界に明日はないことがはっきりした。

一方、脚光を浴びてきたのが「**命の源の食を生産する**」農林水産業の存在。日本列島は世界で最も安全安心多用な優れた食料を産する。農作物は手塩にかけただけ収穫という恵みを毎年もたらす。さらに、メタボリック症候群など生活習慣病予防に有効な機能性成分が次々に発見されている。

今、自治体やJA主催の一次産業への就職相談会や雇用創出に人気が高まる。解雇はチャンスの到来だ。ただし、自然は時に牙を剥き労働はきつく甘えは事故につながる。予断を許さないEPA（経済連携協定）などの国際交渉もある。覚悟を固め真面目な者には、農業の懐は広く深い。働き手の去った高齢化の農村に新たな就業者の追い風。農村の未来は受け入れ体制の確立と育成手腕にある。まさに日本農業の正念場。